「第 6 回コーラスフェスティバル in 和光」に出演する

標記演奏会が、2016 年 4 月 10 日(日)、16 団体が参加して、和光市サンアゼリア大ホールで開催された。（女声;10 団体、男声；3 団体、混声；3 団体、詳細は、別添プログラム参照）

志木グリークラブは、7 番目に出演し、矢澤千宜先生の指揮で、『Annie Laurie』と組曲「あの日たち」より『またある夜に』の 2 曲を演奏した。

1 曲目の『Annie Laurie』は、代表的なスコットランド民謡として知られている楽曲である。歌詞は、1700 年頃、フィンランドのウィリアム・ダグラス(1672?～1748)の詩をもとに作られ、曲は、スコットランドの女流音楽家ジョン・ダグラス・スコット夫人が 1838 年に作曲した。

歌の由来は、マクスウエルトン卿サー・ロバート・ローリーの末娘であったアニー・ローリーは、1682 年 12 月 16 日、父親の館であるマクスウエルトン・ハウスで生まれた。

詩を作ったウィリアム・ダグラスは、彼女に結婚を申し込んだが、歳の差、アニー・ローリーがまだ若すぎること、氏族間の対立などの理由でマクスウエルトン卿に反対された。恋の痛手から立ち直った頃にダグラスは、エイザベス・クラークという女性と出会い駆け落ちをしたとのこと。

一方、アニー・ローリーは、1710 年にクレイグダーロックの領主アレクサンダー・ファーガソンに嫁ぎ、33 年間そこで暮らした。1761 年に亡くなり、クレイグダーロックに埋葬されたと言い伝えられており、マクスウエルトン・ハウスには今も彼女の肖像が残されている。

ウィリアム・ダグラスの詩は、何度か手直しされており、1854 年のクリミヤ戦争で、未亡人や孤児となった人たちへの慈善活動のために出された歌集にこの詩が載せられたことから、やがて軍楽隊も演奏するようになり、広く知られるようになった。 （一部「ウィキペディア」より）

歌詞

1 Maxwellton's braes are bonnie, マクスウエルトンの家の丘は美しく
Where early fa's the dew 朝露に濡れる
And it's there that Annie Laurie あの丘でアニー・ローリーは、
Gave me her promise true 私に真実の愛をくれた
Gave me her promise true
Which ne'er forgot will be この愛を忘れることはできない
And for bonnie Annie Laurie 愛しいアニー・ローリーおためなら
I'd lay me doon and dee 私の愛を捧げる 死ぬことすらもいとはない

2 Her brow is like the snowdrift 彼女の顔は行のようで
Her throat is like the swan 彼女の首は白鳥のようだ
Her face is the fairest 彼女はもっとも美しく
That e'er the sun shone on 陽の光に満ちている
That e'er the sun shone on
And dark blue is her e'e 彼女の瞳は深い青色
And for bonnie Annie Laurie 愛しいアニー・ローリーのためなら
I'd lay me doon and dee 私の愛を捧げる 死ぬことすらもいとはない

3 Like dew on the gowan lying ひな菊の上の露のように
Is the fa' o'her fairy feet 夏にそよぐ風のように
And like winds in the summer sighing
Her voice is low and sweet 美しい彼女の声
Her voice is low and sweet
And she's a' the world to me 彼女が僕の全てだ
And for bonnie Annie Laurie 愛しいアニー・ローリーのためなら
I'd lay me doon and dee 私の愛を捧げる 死ぬことすらもいとはない

2 曲目に歌った無伴奏男声合唱組曲「あの日たち」より『またある夜に』は、作詩、立原道造、作曲、北川昇である。立原道造は、1914 年（大正 3 年）7 月 30 日、現在の東京都中央区東日本橋に生まれ、昭和初期に活動し、1939 年(昭和 14 年)3 月 29 日、24 歳で結核に罹り急逝した詩人であり、建築家としても足跡を残している。

一方、作曲をした北川昇は、1983 年、神戸市に生まれ、大阪音楽大学音楽部作曲科を卒業、同大学院音楽研究科を修了した、新進気鋭の音楽家である。作曲活動の傍ら、合唱講習会講師やｺﾝｸｰﾙの審査員としても活動している。

『またある夜に』の詩は

私らはたたずむであらう　霧のなかに
霧は山の沖にながれ　月のおもを
投箭のやうにかすめ　私らをつつむであらう
灰は帷のやうに

私らは別れるであらう　知ることもなしに
知られることもなく　あの出会った
雲のやうに　私らは忘れるであらう
水脈のやうに

その道は銀の道　私らは行くであらう
ひとりはなれ・・・・
（ひとりはひとりを夕ぐれになぜ待つことをおぼえたか）

私らは再び逢わぬであらう　昔おもふ
月のかがみはあのよるをうつしてゐると
私らはただそれをくりかえすであらう

北川昇は、この曲を作曲した意図を次のように述べている。組曲「あの日たちは」東京六大学合唱連盟の合同ｽﾃｰｼﾞのために作曲した。この組曲を作曲するにあたって考えたことは、「同年代の作曲家と歌い手だからこそ出来るｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ」であったと。そして、「歌い手とほぼ同年齢で書かれたものを・・・」とさがしていたところ、立原道造の詩集「萱草に寄す」に辿り着いた。
立原道造が生きていた時代と現代とでは、余りにも違いがあると言っても、時空を超えた「同年代」として六連の学生が何かを感じ取ってくれるのではないかとの思いがあった。

要するにこの組曲は、大学生が歌うために作られた曲であり、立原道造もまた二十歳前後の頃この詩を作ったのであろう。

ここで、当日の我々の演奏を録音で聴いて客観的に演奏を評価してみよう。
2 曲の演奏を聴いての全体的な評価は、頑張りすぎて、大声で歌い過ぎている。
ｻﾝｱｾﾞﾘｱのｽﾃｰｼﾞには過去何度も立っているので、ﾎｰﾙの響き、残響時間等々の特長は大体分かっている筈だ。もう少し、ﾎｰﾙの良さを生かした、4 ﾊﾟｰﾄのﾊﾞﾗﾝｽのとれた演奏が出来なかったものか。（志木ｸﾞﾘｰｸﾗﾌﾞへの期待度が高いので）敢えて辛口の評価をすれば、「音楽になっていない」。

1 曲目の『Annie Laurie』は、3 番まで歌詞があり、1 番は Andantino で、Bass、Baritone が歌い出し、2 番は Alla Marcia(行進曲風)に歌い、3 番は Moderato で歌う。
今回は、英語の歌詞もｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞの方言の発音で歌ったこともあってか、粗削りで、丁寧に歌っていないように聴こえる。歌詞が、ﾌﾞﾂﾌﾞﾂ切れて、ﾚｶﾞｰﾄのところが少ない。
ｱﾆｰ・ﾛｰﾘｰへのｳｨﾘｱﾑ・ﾀﾞｸﾞﾗｽの想いを上手く表現できていない。もっとｿﾌﾄに優しく歌えれば

よかった。余り、貶すばかりでは申し訳ないので、うまく歌えているところもある。それは何度も繰り返し練習してもなかなか出来なかった最後のハーモニーは、ﾊﾞｯﾁﾘ決まっていた。

次に2曲目の『またある夜に』は、前述したように、北川昇が、大学生向けに作曲したものである。そんな曲を平均年齢7×歳の我々が歌うのであるから、初めからかなり無理があったといえる。

まず、どの位のﾃﾝﾎﾟで歌うかである。北川昇が作曲した楽譜に表記された速さは、♩＝66（演奏時間4分）である。

今回我々の演奏時間は、3分10秒であった。（やはり、曲の持ち味が十分表現できていない）

(YOU Tubeで複数の演奏を聴くことができるが、演奏時間は3分10秒から3分55秒と幅がある。聴き比べるとやはり楽譜に書いてある ♩＝66＜演奏時間 4 分＞で歌っているのが、曲の持ち味が出ているように感じる)

『またある夜に』は、p で始まり、mp、mf、dim、＜、＞、f、poco rit、a tempo、で最後は pp で終わる曲である。この強弱、大小、緩急の表現が十分出来ていない。

4ﾊﾟｰﾄのﾊﾞﾗﾝｽが良くなくて、本番になるとどうしても頑張りすぎて、大声で歌う傾向が見受けられる。お互いに他のﾊﾟｰﾄを聴き合って歌う訓練は、練習の時にやってきたつもりであるが、いざ、ｽﾃｰｼﾞにのると気合が入って頑張る傾向が我が団には以前からあるような気がする。

歌詞が立原道造の詩であることから、詩の意味を音にのせて伝えることが、難しかったようだ。馴染みのない詩であり、曲であるため、何を言っているのか聴衆の皆様に伝わり難かったと思う。

作曲者の意図を十分に汲み取り、表現するためには、曲のできた背景、歌詞の解釈、発声の仕方等々が総動員されなければならない。これが今後の課題である。

“ｺｰﾗｽﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ in 和光”は、今年で6回目を迎えたが、年々ﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟしている。
また、歌って聴いて皆が楽しむという点からいえば、脇田先生が指揮をされて複数の女声合唱団が歌ったﾎﾟﾋﾟｭﾗｰｿﾝｸﾞ(例えば、ｺｰﾋｰｻﾝﾊﾞ、恋のﾊﾞｶﾝｽ、お嫁ｻﾝﾊﾞ等)は、会場とｽﾃｰｼﾞが一体となり、大いに盛り上がった。このことは、選曲をする上で参考になった。

今回、男声合唱団は、3団体が出演し、最後に3団体合同演奏で『Ständchen』を歌ったが、人数も多く、厚みのある重厚な演奏であった。

辛口の評価になったが、志木ｸﾞﾘｰｸｸﾗﾌﾞは、1992 年(平成 3 年)暮れに発足し、翌年から本格的な活動を開始した。今まで、上手下手はともかく、歌った曲数は、150曲以上になる。
「継続は力なり」というが、今日まで演奏活動を続けられたのは、団員同士をはじめ、家族、指導者等の協力があったからである。感謝、感謝の気持ちで一杯である。
今後も、寄る年波に負けることなく、円熟味のあるハーモニーを目指して、ｶﾞﾝﾊﾞｯﾃいきたい。

(2-Tenor；和氣敏夫)

第6回

コーラスフェスティバル in 和光

開催日：2016年4月10日(日)
時　間：13時30分開演
場　所：和光市民文化センター
サンアゼリア大ホール

主催：コーラスフェスティバル in 和光実行委員会／助成：(公財)和光市文化振興公社／後援：和光市教育委員会／連絡：脇田 048-479-0380

～第１部～

１ 唱歌クラブ　　指揮　宮地多美子　　ピアノ　杉本文子

アニーローリー　　訳詞　堀内敬三　作曲　スコット
故郷の空　　訳詞　大和田建樹　編曲　岡本 仁　スコットランド民謡
広い河の岸辺　　訳詞　八木倫明　編曲　田中和音　スコットランド民謡
Auld Lang syne　　作詞　不明　スコットランド民謡

２ 女声コーラス 彩音　　指揮　小屋敷　真　　ピアノ　小笠原貞宗

三つの聖歌合唱曲集　ロッシーニ作曲「信仰・希望・愛」より
La Fede　信仰　　訳詞　鈴木一郎　作曲　G.ロッシーニ　編曲　冨岡正男

こどものための合唱曲集　光のとおりみち より
麦藁帽子　　作詞　立原道造　作曲　三善 晃

♪合同演奏１&2&3　　花

３ はっぴいばあど　　ピアノ　榊原　直子

This Little Light Of Mine　　黒人霊歌
Again I Say Rejoice　　作詞・作曲　イスラエル・ホートン／アーロン・リンゼイ
365 日の紙飛行機　　作詞　秋元 康　作曲　角野寿和・青葉紘季　編曲　榊原直子

４ MF グリークラブ和光　　指揮　布施忠良　　ピアノ　鈴木康子

雨　　作詞　八木重吉　作曲　多田武彦
熊祭りの夜　　作詞　菊田一夫　作曲　古関裕而
ハイ・ホー　　作詞　Larry Morey　作曲　Frank Churchill

５ クリスタル ハーツ　　指揮　脇田美保子　　ピアノ　小笠原貞宗

赤い月のブルース　　作詞　桑名小弓　作曲　尾形敏幸
コーヒールンバ　　訳詞　中沢清二　作曲　ペロー二
お嫁サンバ　　作詞　三浦徳子　作曲　小杉保夫

♪合同演奏５&6　　ラスト・ワルツ

６ コール・ソアール　　指揮　武 かほる　　ピアノ　利根川正子

春のメドレー　　編曲　たかしま　あきひこ
四季より「春」・どこかで春が・どじょっこ ふなっこ・
春の小川・ちょうちょう・うぐいす・うれしいひなまつり・
さくらさくら・花まつり・花の街・春の唄・花のまわりで

７ 志木グリークラブ　　指揮　矢澤　千宜

Annie Laurie（アニーローリー）　　編曲　エマーソン　イギリス民謡

組曲「あの日たち」から
またある夜に　　作詞　立原道造　作曲 北川　昇

８ 朝霞混声合唱団　　指揮　坂本恒太　　ピアノ　金原理恵子

混声合唱のためのヒットメドレー「LOVE」より　　編曲　三沢治美
ゴンドラの唄　　作詞　吉井　勇　作曲　中山晋平
東京ヴギウギ　　作詞　鈴木　勝　作曲　服部良一
恋のバカンス　　作詞　岩谷時子　作曲　宮川　泰
瀬戸の花嫁　　作詞　山上路夫　作曲　平尾昌晃

♪合同演奏８&9　　糸

9 混声泉コーラス

指揮　岩國弘文　　ピアノ　山崎　愛

混声合唱曲集「落葉松」より
落葉松　　作詩　野上　彰　　作曲　小林秀雄

混声合唱組曲「風と花粉」より　　作詞　伊藤海彦　　作曲　大中　恩
空の牧場
風の旅

休憩

～第２部～

10 アンサンブル Sola

指揮　脇田美保子　　ピアノ　小笠原貞宗

糸　　作詞・作曲　中島みゆき　　編曲　山室紘一
恋のバカンス　　作詞　岩谷時子　作曲　宮川　泰　編曲　信長貴富
恋のフーガ　　作詞　なかにしれ　作曲　すぎやまこういち　編曲　信長貴富

11 Dolce 合唱団♪

指揮　阿部朋子　　ピアノ　西原千裕

ぼだい樹　　訳詞　近藤朔風　作曲　シューベルト　編曲　荒谷俊治
いい日旅立ち　　作詞・作曲　谷村新司　　編曲　河西保郎

♪合同演奏 10＆11＆12　上を向いて歩こう

12 コール・リボン

指揮　宮地多美子　　ピアノ　武井千栄子

小さな空　　作詞・作曲　武満　徹
島へ　　作詞　井沢　満　作曲　武満　徹
翼　　作詞・作曲　武満　徹

13 アンサンブル フェリーチェ

ピアノ　武石玲子

アヴェ・ヴェルム・コルプス　　作詞・作曲　モーツァルト
広い河の岸辺　　訳詩　八木倫明　編曲　吉田桂子　スコットランド民謡

14 アンサンブル バカラ

指揮　脇田美保子　　ピアノ　小笠原貞宗

さくら～ハナミズキ～花

♪合同演奏 13＆14＆15　春の歌メドレー

15 シャンテ・カフェ

指揮　布施忠良　　ピアノ　鈴木康子

故郷の人々　　作詞　津川主一　作曲　フォスター＆ドヴォルザーク
夢路より　　作詞　津川主一　作曲　フォスター　編曲　津川主一
モルダウの流れ　　作詞　野上　彰　作曲　スメタナ　編曲　深井史郎

16 ドン・キホーテ男声合唱団

指揮　河田修朗

希望（のぞみ）の島　　作詞　小松玉巌　作曲　M.ジョーンズ
Gaudeamus（学生歌）　　作詞　岡本敏明　作曲　ドイツ民謡
夜のうた　　作詞　阪田寛夫　作曲　佐々木伸尚　編曲　福永陽一郎

♪合同演奏 4＆7＆16　Ständchen（小夜曲）

全員合唱　　みどりのそよ風